

■ 酒を飲まずに宴会になじむための5カ条 ■

1、つがれる前につけ

- 相手のグラスが空になる直前のタイミングをとらえ、つく。水割りを率先して作り、自分用には氷水やウーロン茶の水割りをこっそり用意

2、聞き上手になれ

- ほろりともらす本音をとらえ、ビジネスに生かそう

3、幹事業務をこなせ

- 注文、会計を引き受け、皿なども整理すると店の人にも喜ばれる。飲まなくても楽しめる店を予約する

4、飲まない理由を用意せよ

- 休肝日にしたい人は「ドクターストップがかかっている」、「痛風にかかった」、「明日は運転するので」などが有効

5、孤立するな

- 一人寂しそうにしていると酒をすすめられやすい。積極的に話題の輪に加わる



江森さんは十二年間の営業経験から一つの教訓を得た。「一人に酒

忘年会 飲まずに過ごすには？

忘年会シーズン到来。日ごろのストレスを発散する機会になればよいが、連日の飲み会で肝臓が疲れたり、体質的にアルコールを受け付けなかったりする人は気が進まないこともある。そんなときどのように宴会を乗り切れればいいのか。「飲まない宴席名人」たちとそのコツを聞いた。

「リンビール東京中央統括支社営業部課長代理の江森晋さんは、酒造企業勤務なのに「飲めない営業マン」。生ビール一杯で顔は真っ赤になり、そのうち眠くなって記憶がなくなる。しかし忘年会シーズンともなると毎晩のように宴会に出なければならぬといふ。」「一人に酒を

吉本興業の元常務でフリープロデューサーの木村政雄さんはこもてのイメージとは裏腹に「アルコールを一滴も受け付けない体質」だそう。。「今の時代は自分は飲めないと宣言してしまえば、無理にすすめられることもない」と話す。飲まない代わりに「聞き役に徹する」のが木村さん流。宴席では先方が本音をぼろっとこぼすこともあるので、ビジネスチャンスにつなげようとする。ウーロン茶片手にしっかり食べつつ、相手が気を許したところで商談に持ち込めれば完ぺきだ。

江森さんはできるだけドアや出入り口に近い末席に座り、使用済みの皿の整理などを率先してやる。運転手役を買って出て「今日は飲めません」と最初に断るのも手だそう。木村さんが心がけるの

つがれぬ工夫を迷わず下戸宣言

「……と答える。その答えが周りに心配をかけてしまうなら「明日は運転するので」と答えれば差し障りがないだろう。加藤さんが最近気になっているのが、中国や韓国などで開かれる企業の懇親会で酒を断れない人が目立ってきたこと。「欧米のパーティーでは無理に飲まされることはないが、地域によってはつがれた酒を飲まないのを失礼とする文化もある」。本当に飲めない人は乾杯前に飲めない理由を説明する。

飲むときは空腹だとアルコールの吸収が早く、酔いがまわりやすくなるので「前もってパンやご飯を軽く食べておくといい」と話す。

それでも、さらに飲み続けなければならぬとき。江森さんは「苦肉の策だが、手もとにおしぼりやおわんを置いておき、口に含んだ酒をこっそり出すのも一つの方法」と明かす。

もちろん、飲めない人にアルコールを強要するのは禁物。加藤さんによると、アジア人には生来アルコールを分解する酵素の働きが弱い人がいる。日本人でも約1割はこの酵素がほとんど働かず、約4割は働きが弱いため、顔などが赤くなってしまふ。

飲酒運転は絶対に許されされない。後味の悪い忘年会にしないために、わずかも酒を飲んだら運転しないように本人も周囲も注意しよう。

は、飲まない人も楽しめる場の設定。「二次会で手品ショーを見られるバーに連れて行くなど、自分も先方も喜ばせてくれる店のチェックは怠らない」と話す。アルコールを受け付けな